

これまでの主なご意見

<全般>

- 以前は6日間連続で研修をしていたが、企業在籍型の受講者から、連続した研修は参加がしにくいという声を聞き、現在は3日ずつに分割して実施している。
- 様々な立場の受講者が参加するため、可能な限り多様な立場の人に講師を依頼している。
- 各科目の開始時に、実際のジョブコーチ支援とどのように関係しているかを解説している。
- 研修の実施を通じて受講者との関係構築を図り、修了後のジョブコーチ活動を円滑にスタートできるようサポートしており、OJTで支援スキルを伝えている。

<演習>

- 社会福祉士等と違い、ジョブコーチ養成研修については、演習方法等についてきちんと議論がされてきておらず、研修機関それぞれが工夫している状況にある。今後、そういったものを作っていくために、この研究会を議論のスタートにしたい。
- アセスメントの演習の中で、企業在籍型と訪問型でチームを組んで面接のロールプレイをしている。
- 実際の作業場面をビデオで見て、どのような問題があり、どのような障害特性と関連しているのかをシートに書き、本人にフィードバックする演習をしている。

<実習>

- 実習先は、できる限り受講者が自社に戻ったときに参考にしてもらえるような割り振りにしている。
- 実習では、企業のアセスメントに重点を置いている。事業所実習での気づきは大きく、最終日に各自の気づきを全体で共有することでさらなる学びにつながる。
- 実習の中で、教えるー教えられる体験をし、どうわかりやすく伝えるのかを体験してもらっている。
- コロナウイルス感染対策の影響で実習先の確保が綱渡り状態である。カリキュラムの中に実習を含めることがよいか、切り離すことができるか等も考えられるのではないか。

- 1 ジョブコーチ養成研修は、全ての科目について集合研修の形式で行ってきた。一方、今年度は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講義や演習について、一定の条件の下でオンラインによる実施を認めている。今後、ウィズ・ポストコロナ社会の中で、研修の質を担保しつつ、どのような講義や演習の方法が考えられるか。

(見直し案)

○ 講義

集合形式で行うことが望ましいが、双方向性が確保され、参加状況の確認ができる形式でのオンラインによる実施も認めることとする。

○ 演習

対人援助業務であることや、他の受講者の意見や経験の共有など、集合形式で行うことによるメリットも大きいことから、現行どおり、集合形式での実施とする。ただし、同一科目の中で、講義と演習を行う場合の講義部分や、講義の中で個人ワークを行う部分については、オンラインでの実施も認めることとする。

- 2 実習については、実習先の確保が困難な一方で、受講者からの評価が高い科目である。ウィズ・ポストコロナ社会の中で、どのような実習のやり方が考えられるか。

(見直し案)

○ 実習

現行どおり、実際にジョブコーチによる援助が行なわれている事業所又は障害者の雇用管理に関して十分な実績のある事業所において実地の研修を行うこととする。予定の研修期間内での実施が難しい場合は、なるべく早期に実施することが望ましいが、年度内の実施が難しい場合は、年度をまたいでの実施も認めることとする。

- 3 講師の要件等その他研修方法について、研修の質の担保・向上の観点から見直すべきことはあるか。